

# 天塩町及び筑波大学との協働・連携による地域探究の実践

北海道天塩高等学校 学級4 (校長 後藤 禎和)

## 1 実践の趣旨

本校では、天塩町の協力を得て、平成 29 年度から希望生徒と筑波大学との高大連携事業を開始し、天塩町の活性化を図るための地域探究を続けてきた。令和 3 年度から「総合的な探究の時間」における全校的な取組とし、留萌管内の普通科高校として、スクールミッション「異校種及び関係機関との連携をはじめ、地域資源を活用した教育活動を通じて、郷土への理解を深め、持続可能な地域社会の実現に努める生徒の育成」に取り組んでいる。

## 2 実践の概要

### (1) 天塩町が抱える課題の背景を知り、課題解決に向けた仮説を立てる

1 学年において、町長から、町政の課題に対する考えや、町政に興味・関心をもち主体的に町の課題に取り組むことへの期待について講義を受け、地域探究に取り組む意識を高めた。また、天塩町の歴史や産業に関して理解を深めるため、施設見学や体験活動等を行い、これらを踏まえて帰納法的に課題解決に向けた仮説を立てた。

### (2) 「筑波大学高大連携ワークショップ・シンポジウム」への参加

2 学年において、6月に複数回オンラインワークショップを行い、大学生から探究の進め方や発表の方法について指導を受けた。また、8月、大学生が来町し発表完成に向けたワークショップを行うとともに、翌日のシンポジウムでは、「ふるさと納税に夕日観賞などの体験型返礼品を加え観光客を集客」及び「天塩産アロマエゾマツでアロマ商品を作って販売」が最優秀賞に選ばれた。



【高大連携シンポジウムの様子】

### (3) 見学旅行訪問先での天塩町PR活動

2 学年の見学旅行において、天塩町地域おこし協力隊との協働により、兵庫県神戸市内の商業施設「神戸ハーバーランド」でPR活動を行った。8月の高大連携シンポジウムで最優秀賞に選ばれた2つのテーマについて、天塩高校から町の夕焼けの風景をオンラインで配信したり、生徒が考案したアロマオイルを無料で配付したりするなど、天塩町の自然を活用した観光事業の活性化案を披露した。この取組は、次年度以降も継続する予定である。



【神戸でのPR活動の様子】

### (4) 探究テーマの具現化及び検証

昨年度の高大連携シンポジウムにおいて最優秀賞となった「天塩町夕陽サイクリング」は、天塩町観光協会の協力によりレンタサイクル事業と結び付き、観光客向けのツアーとして紹介されている。今年度は3 学年全員が実際に体験し、改善点を検討した。また、「天塩町にカフェを作る」のアイデアが、町内の飲食店において「あんこうざんぎバーガー」として商品化されるなど、地域探究におけるアイデアは、行政はもとより経済の担い手からの理解・援助を得ることで、探究の成果が具現化され、取組の推進が図られている。



【あんこうざんぎバーガー】

## 3 今後に向けて (○成果 ●課題)

- 「地域探究に取り組んだことで地元の酪農業の課題を強く意識するようになり、課題解決に関わる進路を選択するに至った。進学先で十分な知識と資格を得て、地元へ貢献したい。」など、生徒が地域の課題を強く意識し、自らの進路選択について主体的に考えるようになった。
- 全校的な取組とすることにより、天塩町及び筑波大学との連携を強化し、地域探究を深めることができた。
- 生徒が自らの経験を糧に自信をもって進路選択ができる動機付けとなるよう、今後も教育活動の充実を図る必要がある。